人づくり、国づくり

松永安左エ門

実業之日本社

人づくり・国づくり

定価　五二〇円

昭和四十年十一月二十日　初版©

著者　松永安左ェ門

発行者　増田義彦

印刷所　東京研文社

発行所　実業之日本社
東京都中央区銀座西一ノ三
振替口座　東京三二六

者近影

の優良実務書

並木俊守著	粉飾決算	三三〇円
田中要人著	管理職の実務	三七〇円
舛田精一著	資金繰りの経営実務	三〇〇円
舛田精一著	決算報告書による会社診断法	三三〇円
佐野雄志 大熊芳隆著	新広告宣伝入門	三七〇円
牧野昇著	経営を支える技術戦略	四五〇円

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

実業之日本社

小林　宏著　企業拡大の着眼点　四七〇円

中山栄司著　借入金の経営学　三五〇円

豊沢豊雄著　特許出願法　三五〇円

実業之日本社編　式辞挨拶演説事典　四七〇円

実業之日本社編　文書帳票書式事典　七五〇円

実業之日本社編　商売開業の秘訣　四三〇円

《実業之日本社の優良図書》

松永　安左エ門 著	世渡り太閤記	380円
松永　安左エ門 著	出たとこ勝負	350円
松下幸之助 著	物の見方・考え方	230円
鈴木三郎助 著	味に生きる	340円
矢野一郎 編	武道初心集	250円
安西正夫 著	事業人の眼	320円
石田退三 著	人生勝負に生きる	380円
大川　博 著	この一番の人生	350円
河田　重 著	急がず焦らず	450円
五島慶太 著	ポケット菜根譚	400円
橋本忠司 著	此花閑話	450円
ライシャワー 著 田村完誓 訳	世界史上の円仁	980円
石田博英 著	私の自画像	450円

はしがき

宇宙船の時代に、アンドンとランプで育った爺さんの話でもあるまいと思うのだが、それでも、時折り、シャベれとか書けとかいわれる。

僕が酔ってうたう唄は、木曾ぶしも博多ぶしも、聞いてる方は、何ぶしか区別がつかん、というが、好き勝手に、声を出したくなれば出すのが耳庵流だ。芸になってないことは自分でも弁まえている。この小著も、そんな松永ぶしである。時に、注文に応じていたら案外たまった。

浮気もしかねない亭主族の方に、仕事で積極的な男が多いと、体験した男性論をやったら〝浮気を奨励する気か……〟とこわいおばさんに叱られた。利根川の沼田にダムをつくり、水の問題を解決して、東京湾のうち二億坪を埋め立て、新しい国づくりをやろうといったら〝ご自分が生きているうちに、できそうもないおせっ介だ〟……という人もあっ

た。

しかし、僕よりはよっぽど偉いと思っている松下幸之助さんは、このなかの一つを『これが真理だ……』と褒めてくださった。

東京湾のことでは、大磯の吉田茂さんが『三十億ドルを借金して、借金学の博士になる』と同志になってくれた。〝人間の干物みたいな爺さんだが、話は聞きたい……〟とわざわざ立ち寄ってくれる人がないでもない。お世辞やら、激励やらを真にうけて、ここ数年間、新聞や雑誌に書いたもの、あるいはテレビで放送した話などをまとめ、若干補ったのがこの本である。

僕は若いころから、相当にヘソが曲っていた。九十歳を超えても、なかなかまっすぐにならない。むしろ、腰とともにますます曲る、ということが自分に判りかけた。都合の良いことに、耳もいっそう遠くなって、雑音はいっこうに聞えない。聞えないということも便利なもんで、東京は昼も夜も、喧しいそうだが、僕は平気で安眠ができる。長命の人は、まず耳が遠くなるなどというが、僕にいわせると、耳が遠いから余計なことは聞えず、静

かでいつも平穏、だから長命になってしまうと思っている。つんぼの特権―恩恵だ。

五感のにぶった男の説だが、九十余年の僕の人生経験から生れたものであることは間違いない。その意味では、九十歳の男の世界に案内している点もあろう。間もなく、明治百年になるがそのほとんどの間、存在していた一人の人生談義である。博物館でも見学する気で読んで頂ければ幸いである。

昭和四十年　仲秋

目次

はしがき

白話

人間はつくられる……一一
鬼……一五
お茶もファイト……一九
ある愛の物語から……二一
欲……二三
日本人……二六
詩聖タゴール……二八
明治維新の一面……三〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

長生きが勝ち……三三
〝平心〟〝平心〟……三六
誕生日……四〇
松永学術振興財団について……四三
海の国……四六
黒四ダムの開発……四九

わが構想

佐藤内閣への希望……五三
科学の利用による日本の水産、酪農……六四
文明感覚の差……六七
排他でなく協同……六九
現実界の魔杖……八一
日本は敗北主義に陥っている……八四

無視されたわが構想……九一
不況ノイローゼを吹き飛ばせ……一一一

唯我独尊

年頭所感……一二七
立つの立たぬの……一二八
「自由」という意味……一三四
余暇の娯楽と怠惰……一三六
天上天下唯我独尊……一四〇
偉人は自からつくられた……一四三
即録心境……一四八
幸福な生活……一五〇
気に食わぬ平和ムード……一六〇
幸福な死……一六四

歴史の教訓の一つ……一六五
調和と個……一六六
躍動……一六八

人間回顧

山本条太郎……一七一
杉幾太郎……二二七
青木徹二……二三七
山本久三郎……二四九

国づくり十話

抵抗ということ……二六三
気づかぬ重力のありがたさ……二六七
善悪を超越してから……二七一

国づくりも思想が先行する……二七五
産業の規模拡大と道州制……二八〇
ある道具屋のはなし……二八四
日本民族の優秀性……二八七
成功という泥を吐く心境……二九一
捨て身でぶつかれ……二九六
相撲と人生観……三〇一

装幀　岡村夫二
扉・文字　著者

白

話

昭和三十九年十月から四十年一月にかけ、週一回、近畿、中部地方にテレビ放送されたもの。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook